

中国、好調に推移するNEV販売、低燃費自動車も

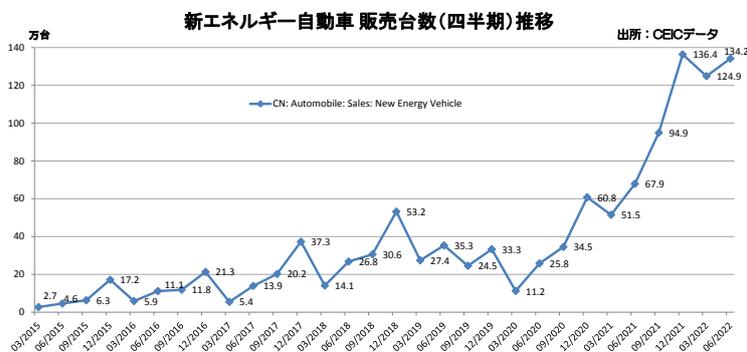
◆上期の自動車販売が落ち込むなか順調な新エネルギー自動車 (NEV) の販売台数

中国国家统计局が発表した2022年の第2四半期のGDP実質成長率は0.4%（前年7.3%）と減速した。第1四半期は4.8%（前年18.3%）だった。22年4月には16～24歳の若者の失業率も過去最悪の18.2%となるなど、4月以降の感染拡大に対応するためのゼロコロナ政策に基づく都市封鎖の影響が、中国経済の成長の足かせとなっていることが顕著に現れている。

上期の新車販売台数も

1,205万7,000台（前年同期比6.6%減）と落ち込んでいるが、NEVはグラフからもわかるように約260万台（前年同期比2.2倍）と

好調に推移している。年間の販売予想も新車全体で2,700万台（前年比3%増）となるなか、NEVは550万台（前年比56%増）と大幅な増加が見込まれている。



◆カタログ値との乖離の大きいBEV（純粋電気自動車）の実質航続距離

自動車専門誌「懂車帝」が夏場の電気自動車の航続距離のカタログ値との乖離について発表している。50℃近い夏のトルファンでテストしたBEVの実質航続距離はカタログ値の66%（常温時74%、-15℃の冬期44%）にとどまり、BEVは冬だけでなく夏も航続距離に懸念があるとレポートしている。ちなみにBMWix3の82%がトップで、傾向として国内メーカーの乖離が大きかったという。

一方、HEV（ハイブリッド車）を低燃費自動車とする優遇政策が21年に施行され、21年の販売台数は66.9万台（20年49.9万台）と伸長し、22年も好調に推移している。BEVの利用者が増え、長距離利用が増えれば環境重視型ユーザーの中には、充電の手間を嫌うユーザーもいるはずだ。ガソリン価格高騰でより低燃費の車両を求めるユーザーも増えるはずだ。環境性能と燃費に優れたHEVへのニーズが増えれば、HEVを得意とする日本車への追い風になりそうだ。 【森山博之】